

不登校の要因や背景を的確に把握するために

～教職員＋SC，SSWによるアセスメントで効果的な支援を～

これまで、児童生徒の心のサポート班（以下、「サポート班」という。）では、3職種（教育職・心理職・福祉職）の強みを生かし、様々な環境にある不登校児童生徒の支援を行ってきました。

関わってきた多くの事案で、不登校の初期段階から、不登校児童生徒ごとに不登校になった背景やその要因を適切に把握するための「アセスメント」がなされていました。

さらに、アセスメントの結果を支援計画の作成に役立て、組織的な支援が行われていました。

本リーフレットでは、効果的な支援に不可欠なアセスメントを、**教職員だけでなく、専門スタッフを加えた組織で行うことの有効性**について、**サポート班の事例をもとに分りやすくお伝えします。**

宮城県教育委員会のウェブページ「不登校支援について」はこちらから



◆ アセスメントとは？ ◆

アセスメントとは、本人、家族、関係者などの情報から、不登校に至る経緯や現在の環境、本人の状態を捉えて理解することであり、不登校児童生徒への効果的な支援を行う際の前提となるものです。

平成22年の「生徒指導提要」には次のように示されています。

「見立て」とも言われ、解決すべき問題や課題のある事例（事象）の家族や地域、関係者などの情報から、なぜそのような状態に至ったのか、児童生徒の示す行動の**背景や要因を、情報を収集して系統的に分析**し、明らかにしようとするものである。



◆ アセスメントは、宝探しの「地図」 ◆



【図】
アイスバーグモデルを
基に義務教育課で作成



成果

スキル

行動

思考

アセスメント

なぜ、アセスメントが重要なのか。
それは、**支援のスタートがアセスメントにある**からです。
アセスメントは、**宝探しの「地図」**のようなもの。当てずっぽうに探しても宝（成果）は見つかりません。
図にあるように、**成果は氷山の一角**です。成果は、**ピラミッドの土台にあるアセスメント**に支えられています。思考・行動・スキルも同様に、**アセスメントに左右される**のです。



教職員必読 「不登校児童生徒の支援の在り方について」

令和元年10月25日に文科省から出された「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」には、アセスメントの留意点について次のように示されています。

不登校の**要因や背景を的確に把握**するため、学級担任の視点のみならず、**スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等によるアセスメント（見立て）が有効**であること。

また、アセスメントにより策定された支援計画を実施するに当たっては、**学校、保護者及び関係機関で支援計画を共有し、組織的・計画的な支援**を行うことが重要。



I 確認しましょう、不登校支援のきほんの「き」

先生方のつづやき

- 何から始めるのか？
- 気を付けることは？



サポート班の専門職から

☐教育職 ♡心理職 🏠福祉職

- ♡ **心理の専門家（臨床心理士）から**
 - ☐※アセスメントシートを活用するなどして、その子の「生き立ち」「家族像」「学びの状況」等を整理。 ※詳しくは4Pを参照
- ☐ **教育の専門家（指導主事）から**
 - ☐学校の困り感ではなく、子供や保護者の困り感を把握。

- ケース会議の参集者は？
- 何を話し合うか？



- 🏠 **福祉の専門家（社会福祉士）から**
 - ☐先生方が行き詰まると、負担感と孤立感が増大。SCやSSW等の専門家を加えたケース会議の開催が有効。
- ♡ **心理の専門家（臨床心理士）から**
 - ☐不登校の要因や背景を的確に把握するため、専門スタッフを含めた複数の視点で情報を捉え直すとともに、支援の手立てを確認。

- 連携するための留意点は？



- 🏠 **福祉の専門家（社会福祉士）から**
 - ☐誰が何をするのか具体的に役割分担。
- ☐ **教育の専門家（指導主事）から**
 - ☐具体的な支援に結び付けるため、アセスメントを基にした個別の支援計画を作成。

情報共有



ケース会議



支援の継続



◆ 不登校支援が停滞したときのアクションプラン ◆

不登校支援を行う中で「何か、進んでいない……。」と感じた時には、対応の幅を広げるためにアセスメントを行ってはいかがでしょうか。

アセスメントは、1回で終わるものではなく、児童生徒の言動や変化する環境、先生方の理解の深まりなどによって、**継続的に実施**するものです。

不登校児童生徒が次の一步を踏み出すことができるように支援するためには、**身近な専門家であるSCやSSW等の助言を生かし、「チーム学校」で対応**することが有効です。



Ⅱ 専門性を生かしたアセスメントの事例

「ゲーム依存」 小学5年生A児(男子)の事例

■きっかけ

小学5年生男子A児は、6年生から服装のことをからかわれ、周囲の目が気になりだして学校を休むようになった。

■学校の対応

担任の先生から別室に登校して勉強することを提案された。

■子供の状況

夕方の4時から5時までの1時間、担任が準備したプリントを1枚だけやって帰っている。本人が取り組む学習内容は、漢字の学習が多く、算数はやりたがらない。

その後、家に帰ってからは一人部屋で過ごしている。夕食も自分の部屋で好きな食べ物を好きなだけ食べることが多い。その後、深夜までネットゲームをしている。

■家庭の状況

母親は、自宅近くの介護施設でパート勤務をしていたが、本児の状況を理由に現在は働いていない。毎朝、学校に行くように言って聞かせても布団から出てこないで諦めている。経済的にも精神的にも困っている。



サポート班の専門職から(□教育職 ♡心理職 🏠福祉職)



■きっかけ

□教育職◆いじめによる不登校なら、いじめ重大事態となる。確認が必要。

♡心理職◆周囲の目が過剰に気になり、登校できないのは自然な反応。



■学校の対応

□教育職◆通知で示された個別の支援計画及び学校の組織的・継続的な対応について確認。

♡心理職◆どのようなアセスメントをしたのか確認。



■子供の状況

□教育職◆算数が苦手な場合は、2年生で学習する掛け算九九が定着していない傾向。

♡心理職◆お母さんと本人の温かな関係づくりが必要。母子関係を再構築するのも一つの方法。

◆本人の不安な気持ちに添えば、誰もいない学校が、今の居場所になり、その場所から、再び一步を踏み出す、周りの支援が必要。

◆行き場の無い気持ちをゲームで埋め合わせている気持ちも感じ取れる。心の安定のためには、ゲームの時間をプラスとしてみることもあり。



■家庭の状況

□教育職◆今のお母さんに一番必要なのは、お母さんの気持ちを受け止めてくれる人。母親支援を誰がどのように行うのか役割分担を決めることが重要。

🏠福祉職◆母親の養育態度と健康状態について情報不足。母親の同意を得て、まちの保健師に本児の生育歴や母親の子育てへの困り感などについて確認。

◆医療機関での治療を視野に入れた、母親の意向に沿いながらの支援を検討。

◆生活保護を含めた生活の安定に向けた支援を検討。



Ⅲ 学校でも活用できるアセスメントシートの例

個別支援アセスメントシート 記入日 令和 年 月 日 対象児童生徒 学年 () 氏名 ()	
(1)不登校等になった経緯と気になっている問題・行動 小学4年から断続的な不登校で、本年は進学を意識して登校を始めたが、欠席がちである。	
(2)問題の経過と現在の学校生活の様子 ・小学4年から不登校がちで、中学校では1年の夏休み明けに宿題の提出を指導されて以来、ほとんど欠席となった。2年では進級後の1週間だけ登校したが、その後、不登校になった。 ・3年では教室に登校し、一見大過なく楽しそうに過ごしている。しかし学習は、板書を写したり、問題集の解答を写す以上の力がなく、別室で確認プリントをすると割り算につまずき、九九の習得もおぼつかない。 ・ケアハウスを紹介し、そこでの個別学習支援を勧めたが、「普通にやれる」と学級への登校を選択した。 ・しかし、1日登校すると翌日は欠席で登校定着の見通しが持てない。	
(3)学級との関係 <input type="checkbox"/> 学び(学力, 成績, 学習への取組) ・割り算ができない。 ・九九も定着していないかもしれない。 →ミニテストで確認(数学科担当) <input type="checkbox"/> 級友との関係 ・小学校からの仲良しがいて、楽しそうに一緒に過ごしている。→友達パワーが使える! <input type="checkbox"/> 教師との関係 ・教室登校を好むのは、担任への親和感が高いからだと母親が語ってくれた。 <input type="checkbox"/> それ以外で気になる様子や問題 ・小学5年の妹も不登校だそうで、本人が欠席の日は家庭で一緒に過ごしているようだ。 →共通の家庭支援	(4)個人の特徴 <input type="checkbox"/> 性格傾向(長所) ・学校ではおとなしく従順。 ・分かっていなくてもノートを取るなど集団秩序を乱さず、全体の雰囲気に調和することができる。→居心地の良い受け入れ集団づくり <input type="checkbox"/> 心配なところ ・家庭では学校で起きたことへの不満も訴えるので、学校でも自己主張してほしいと母親は願っている。→母親とのパイプづくり <input type="checkbox"/> 発達の特性(障害, 病気で苦戦しているところ) ・学力に顕著な遅れがあるので、知的な課題を推察する必要がある。 →特別支援コーディネーターとの連携 <input type="checkbox"/> 将来像(進路) ・高校進学を意識している。 ・知的な拙劣が明らかな場合は、それを前提にした進路選択が求められる。 <input type="checkbox"/> 家族の状況 ・両親と妹の4人家族。 ・母親は、現在の不登校を何とか改善し、高校につなぎたいと願っている。 →三者面談の活用
(5)関係機関等との連携 ・6月に母子でケアハウスを見学した。 ・母親はケアハウスでの個別支援に乗り気である。	

★
アセスメントを支援計画等に反映させるとともに
関係者で支援計画を共有することが重要です。

♥ 児童生徒の心のサポート班 ♥ ~悩んだら、お電話を~

- ◆教育の専門家(指導主事等) : 学校の組織的対応をサポート
- ◆心理の専門家(臨床心理士等) : 児童生徒の心理・発達をサポート
- ◆福祉の専門家(社会福祉士等) : 児童生徒の環境改善をサポート

不登校児童生徒を支援



児童生徒の心のサポート班
 (大河原教育事務所内)
0224-86-3911

児童生徒の心のサポート班
 (東部教育事務所内)
0225-98-3341